

看護理論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・土田幸子

科目担当者（職位・氏名）：

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：47

■ 授業概要

看護理論に関する基礎知識や看護理論家による代表的な看護理論を教授する。具体的には、それぞれの理論家の看護のメタパラダイムや理論内容および看護実践への活用方法について講義する。看護理論を学ぶことにより、看護現象を科学的に理解する力や看護の基盤となる看護観を養う。

■ 到達目標

1. 「看護理論とはなにか」について述べることができる。
2. 看護理論の分類、歴史的変遷について説明することができる。
3. 代表的な看護理論の概要を述べることができる。
4. 看護理論を実践へ活用する意義を理解し、その方法について考察できる。

■ 教育内容

基礎看護学

■ キーワード

看護理論、看護実践への活用

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	ガイダンス 看護理論の基礎知識	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項 看護理論とは何か、看護理論の定義と分類、 看護理論の歴史の変遷、看護実践と看護理論との関連 (講義)	土田
2	ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護理論を読む①	ナイチンゲール『看護覚え書き』またはヘンダーソン『看護の基本となるもの』を読み、それぞれの理論家が捉える看護のメタパラダイム、看護実践への活用について考察する。 (グループワーク：個人ワーク・討議)	土田
3	ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護理論を読む②	ナイチンゲール『看護覚え書き』またはヘンダーソン『看護の基本となるもの』を読み、それぞれの理論家が捉える看護のメタパラダイム、看護実践への活用について考察する。 (グループワーク：個人ワーク・討議)	土田
4	ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護理論を読む③	グループワークの成果の発表と討議 (発表、全体討議)	土田
5	セルフケアに注目した看護理論 適応に注目した看護理論	オレムの看護理論 ロイの看護理論 (講義、討議)	土田
6	対人関係に注目した看護理論	ウィーデンバック、トラベルビー、ペプロウの看護理論 (講義、討議)	土田
7	ケアリング理論	ワトソン、ベナーの看護理論 (講義、討議)	土田

8	看護理論の看護実践への活用 まとめ	看護理論の実践へ向けて活用する意義および方法について考察する。 (グループワーク：個人ワーク・討議、発表)	土田
---	----------------------	--	----

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

筆記試験 60%、グループ学習 40%：グループ学習への貢献度、発表態度、発表資料の内容、討論への参加度

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・グループ学習での成果を資料として作成する際には、グループ単位でコメントをフィードバックする。
- ・希望者に対して、筆記試験のフィードバックを行う。希望者は、定期試験日から 2 週間以内に、科目責任者にアポイントをとること。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
基礎看護学 ① 看護学概論
- ・フローレンス・ナイチンゲール著（2011）『看護覚え書－看護であること看護でないこと－（改訂第7版）』現代社
- ・ヴァージニア・ヘンダーソン著（2016）『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会
- ・小林富美栄他著（2009）『現代看護の探求者たち－人と思想－ 増補第2版』日本看護協会出版会

■ 参考書・参考資料等

- ・筒井真優美編（2019）『看護理論 改訂第3版 看護理論 21 の理解と実践への応用』南江堂
- その他の参考書は、随時提示する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業 1 コマにつき、事前・事後学修それぞれ 90 分程度（計 180 分程度）必要とする。
- ・事前学修:授業計画に示された内容に即して教科書該当箇所を通読・図書館等の文献を活用し、事前学修をする。授業内で行うグループワーク時に必要な課題内容についてまとめる。発表にむけてパワーポイントや資料作成、発表練習をする。
- ・事後学修:配布資料や教科書の該当部分を振り返り、学びや要点を整理する。講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある。

■ 担当教員からのメッセージ

看護理論は、看護実践の基盤となる科目であり、看護の基本に位置付けられます。主体的にグループディスカッションやプレゼンテーションに参加し、知識を共有し深めていくことで、自己の看護観の構築や看護実践への活用につながることを期待します。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 11、tsuchida★iwate-uhms.ac.jp、特に定めませんが事前に連絡して訪問してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

これまでの看護師経験を活かして、具体例を用いながら看護理論に関する理解を促し、実践にどのようにつなげるかを考察できるよう支援します。